

# 自閉スペクトラム症者の表情認知の問題と それを緩和するための研究開発

産業技術総合研究所・京都先端科学大学との共同研究



自閉症スペクトラム症（ASD）の方では、社会的コミュニケーションの障害や行動の反復・興味の偏りなどが障害の中核とされています。

一方、ASDの方では、視覚・聴覚・触覚などの感覚が定型発達者とは異なるやり方で処理されることがわかってきました。このことが、定型発達者との間で生じるコミュニケーション障害の原因になっているのかもしれない。

コミュニケーションにとって、顔の表情から、相手の感情状態を推定することはとても大切です。自閉スペクトラム症の方は、表情の読み取りが苦手といわれますが、どのような場面でこういった苦手が生じるのか、はっきりとは、わかっていません。



**「表情変化をどのように感じるか」について  
自閉症スペクトラム症の方と定型発達者の方  
の特徴を調べています**

# 自閉スペクトラム症者の表情認知の問題と それを緩和するための研究開発



表情が変化する顔の画像に対して、その顔のどこをみていたかなど視線や瞳孔の大きさを計測しながら、どのような印象を受けたかについて研究しています。

これまでの実験で、定型発達者では、表情の表示された時間の長さに応じた感情の強さの見積もりができることが分かりました。  
一方、ASD者では、怒り表情の度合いの見積もりが苦手である可能性などがわかってきました。

**研究成果をもとに、表情がわかりやすくなる技術を開発し  
自閉スペクトラム者のコミュニケーションの支援を目指します**

**現在、研究参加者を募集しております！**



例えば・・・話し手と聞き手の間で  
表情の印象が等しくなるように調整

**参加者募集に関する連絡先**

→ [dds\\_exp@rehab.go.jp](mailto:dds_exp@rehab.go.jp)

(右側QRコードからでもお問い合わせいただけます)

**研究に関する質問先 (発達障害研究室長: 和田 真)**

→ [wada-makoto@rehab.go.jp](mailto:wada-makoto@rehab.go.jp)

